



第 32 回国際がん登録協議会学術総会 IACR2010 Yokohama Meeting を終えて

祖父江 友孝、松田 智大

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん情報・統計部

2010年10月12～14日に横浜赤レンガ倉庫にて行われた第32回国際がん登録協議会学術総会が無事終了しました。出席していただいた方々に感謝すると共に、企画運営にご尽力くださった数多くの地域がん登録関係者にお礼申し上げます。会長は国立がん研究センターの嘉山理事長、組織委員長は祖父江が担当し、地域がん登録室の味木室長、松田研究員、丸亀主任研究官が事務局として運営にあたりました。

国際がん登録協議会 (International Association of Cancer Registries, IACR) は、WHO から公的にサポートを受けている 1966 年に設立された組織であり、国際がん研究機関 (International Agency for Research on Cancer, IARC) に事務局をおいています。世界各国の地域がん登録を主たる構成メンバー (投票会員数は 240、うち日本会員 11) とし、がん罹患率の国際的なデータブックである「5 大陸におけるがん罹患 (Cancer Incidence in 5 Continents)」を IARC と共同で出版しています。毎年、学術総会が行われ、最近では中国・北京 (2004)、ウガンダ・エンテベ (2005)、ブラジル・ゴイアニア (2006)、スロベニア・リュブリャナ (2007)、豪州・シドニー (2008)、米国・ニューオーリンズ (2009) と開催されてきました。日本での開催は福岡 (1984) 以来の 2 回目となります。



IARC Chris Wild 所長、IACR2010 にて

賛助会員 (2011 年 2 月 1 日現在 20 団体 敬称略、順不同)

(財)日本対がん協会

(財)大阪対ガン協会

明治安田生命保険相互会社 第一生命保険株式会社
アメリカンファミリー生命保険会社

(財)大同生命厚生事業団 日本生命保険相互会社

第一三共株式会社 アストラゼネカ株式会社

富士レビオ株式会社 大鵬薬品工業株式会社

伏見製薬株式会社 堀井薬品工業株式会社

株式会社ヤクルト本社 シェリング・ブラウ株式会社

大塚製薬株式会社 ノバルティスファーマ株式会社

中外製薬株式会社 グラクソ・スミスクライン株式会社

サイニクス株式会社

今回は、メインテーマを「がん登録と社会との調和 Society and Cancer Registration: Towards Harmonization」としました。47 カ国から 257 名が出席し (うち日本から 61 名)、プレナリー講演 4、基調講演 8、口演 40、ポスター 153 の発表を 3 日間で行いました。初日の開会式には、岡本厚生労働省政務官、松沢神奈川県知事に来賓として出席いただき、矢部澄翔さんによる書道パフォーマンスのあと、嘉山会長と IARC の Chris Wild 所長にプレナリー講演をお願いしました。また前後のイベントとして、10 月 11 日には生存解析などのプレカンファレンスコース、10 月 14 日の午後には地域がん登録アジアネットワーク会議、翌 10 月 15 日には、日本の地域がん登録全国協議会と公開講座を開催しましたので、事務局スタッフは 1 週間横浜に缶詰で対応することになりました。本会には、地域がん登録にかかわる全世界の主要なメンバーが毎年参加し、規模もそれほど大きくはないので、参加者の多くがお互いに顔を知っています。また、昼間の学術総会だけでな

目次

IACR2010 報告.....1	登録室便り (高知)7
ACRN 設立会議.....2	JACR 紹介ブース出展.....8
第 19 回学術集会報告.....3	H22 年度臨時総会報告.....9
IACR 名誉会員となって.....5	NCC 地域がん登録室便り・10
Enrico.A. Award 受賞.....6	がん対策推進協議会等.....11
IACR ポスター賞受賞①.....6	編集後記.....12
IACR ポスター賞受賞②.....7	関連学会一覧.....12

く、夜の social event にも趣向を凝らすことが期待されており、前日の晩には著名な寿司職人の川澄健さんによる巻きずしパフォーマンス、初日の晩は生贄のある居酒屋での fishing dinner、2日目の晩は昨年亡くなられた藤本伊三郎先生（大阪府がん登録の創始者で IACR の名誉会員）のメモリアルイベントなどを行いました。

今回 IACR としては初の試みであり、イタリアの財団より若手研究者の口演に与えられる Enrico Anglesio 賞は、大阪府立成人病センターの伊藤ゆり先生が、恒例のポスター賞には、放射線影響研究所長崎の早田みどり先生、当センターの丸亀主任研究官・味木室長ら選ばれ、日本の独占状況となりました。

企画準備は、ほぼ2年前から開始し、1年前からは毎月 IACR 理事長の Brenda Edwards 先生（米国 SEER の責任者）、事務局長の David Forman 先生（IARC, CIN 部長）らと国際電話会議で相談を重ねてきました。国内的には、IACR アジア代表理事である津熊秀明先生（大阪府立成人病センター）やプログラム委員長の田中英夫先生（愛知県がんセンター）、広報委員長の早田みどり先生（放影研・長崎）に大いにお世話になりました。募金活動においては、大島明先生（大阪府立成人病センター）、岡本直幸先生（神奈川県立がんセンター）、三上春夫先生（千葉県がんセンター）を始めとした募金委員会の先生方のご尽力に感謝申し上げます。また、非常勤職員の宍戸さん、アクセスブレインの佐竹さんの貢献度も大なるものがありました。

こここのところ、韓国、台湾に先を越され、中国に追いつかれつつある地域がん登録の世界で、日本のプレゼンスをある程度示すことができたと思います。これ

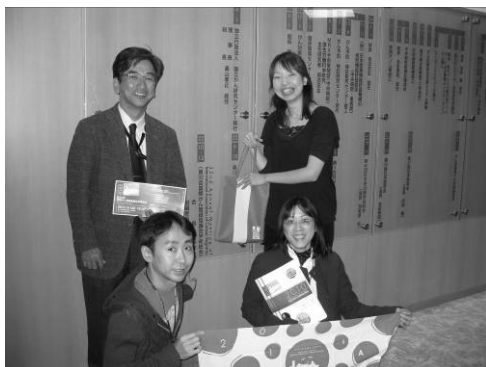
をバネとして、わが国のがん登録の体制整備を一層進めるべく、日々の活動に従事していきたいと思っております。追伸：国立がん研究センター管理棟一階特別会議室前に掲示されている「国立がんセンターの歩み」に本学術総会の一項を加えていただきました。機会があれば是非ご覧ください。

アジアがん登録ネットワーク設立会議

津熊 秀明

大阪府立成人病センター がん予防情報センター
アジアがん登録ネットワーク（Asia Cancer Registry Network；ACRN）設立会議が2010年10月14日、第32回国際がん登録協議会（IACR）学術総会に引き続き、横浜赤レンガ倉庫で開催されました。国際がん研究機関（IARC）と韓国がんセンターが2008年9月に共同開催したアジアがん登録ネットワーク・サテライト会議に始まる関係者の努力とその後の討議を重ね、この日の設立会議開催に至りました。設立会議は、スラポン W 先生（タイ・コンケン大学、前 IACR アジア代表理事）、早田みどり先生（放射線影響研究所・長崎、元 IACR アジア代表理事）が議長となり、ACRN の目的・会員資格・運営方法・会費などを定める要綱の採択、事務局を担う組織の立候補・企画の提案、及び、運営委員の推挙・立候補と承認等を議題とし議事進行し、また、第32回 IACR 学術総会の発表の中から、アジアのがん登録の関心が特に高く、互いに理解を深める必要があると思われる2テーマを厳選し、チェン W 先生（中国、国立中央がん登録）と田中英夫先生（愛知県がんセンター）が座長となり、講演と討議を行いました。記録簿に基づく参加者は、アジアから13カ国50人、ヨーロッパから3カ国5人、米国3人の計58人で、記録されなかった方も含めると60人以上が参加し、熱心な討論がなされ盛会でした。ここでは前者の議事の概要を報告するとともに、設立総会を終えて現在進んでいる ACRN の動きについて、説明致します。地域がん登録全国協議会（JACR）会員各位及び関係者の皆様におかれましても、アジアのがん登録の相互理解と連携を強め、その発展を目指す ACRN 活動へのご参加、お力添えを賜りますよう、お願い致します。

ACRN 立ち上げの運営委員として、祖父江友孝先生



IACR2010 事務局スタッフ（右回り、祖父江、宍戸、丸亀、松田）国立がん研究センター一年表前にて、記念グッズを手に